

1年 指導者 1組 和知 友美 2組 大野 雄生 3組 飯野 拓 4組 小室 由香里

題名(資料名)	はしの上のおおかみ
ねらい	くまの優しさに触れたおおかみの心の変化について考えることを通して、親切にすることの気持ちよさに気づき、人々に温かい心で接し、親切にしようとする道徳的心情を育む。
授業のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・あと3ヶ月で2年生になる1年生。4月に入ってくる新1年生にも、親切な気持ちで接してほしいという担任の願いから、今回の題材を設定しました。自分のことだけではなく、相手や周りの人への思いやりの気持ちを育てていきたいです。 ・『はしの上のおおかみ』は、物語の始め、わがままなオオカミが優しいクマと出会って、親切にすることの気持ちよさを知るというお話です。オオカミの心の変化に着目して、親切な行為や温かい心の良さに気付かせます。
ご家庭でも、誰かが喜んでくれて嬉しかったことや、「ありがとう」と言われて気持ちが良かったことなど、「親切」や「思いやり」について話し合い、あたたかな心情を味わってください。	

2年 指導者 1組 田部井 千可子 2組 山下 義明 3組 加藤 日和 4組 村木 宏子

題名(資料名)	なつこが生まれたころ
ねらい	家族の愛情を受けて育まれてきた自分の生命のかけがえのなさを知り、生命を大切にすることの道徳的態度を養う。
授業のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・教材について 児童が関心をもちやすい「自分が生まれたころ」をテーマとしたお話です。熱を出してしまった主人公なつこは、お母さんから自分が生まれた頃の話聞きます。低体重出生児であったために通常より長く保育器に入っていたこと、お母さんが愛情をもって大切に育ててくれたことを知ります。守り育まれてきた自己の生命の尊さを、なつこに共感しながら考えることができるお話です。 ・授業の流れ <ol style="list-style-type: none"> ① お話を読みながら、自分はどのように家族の愛情を受けて育まれてきたのか、幼いころの自分や、大切にされてきた自分の生命への関心を高めます。 ② 事前に保護者に依頼して、児童が生まれた頃の話を手紙にしたためてもらいました。教材での学びを深めたのちに児童に配布して、自己の生命を見つめる学習を促します。 ③ 自分がかげがえのない存在であるということを知って、感じたことや考えたことを、手紙を書いて保護者に伝えます。
幼少期に子どもが自己肯定感を育むことはとても大事なことです。この機会に、照れや恥ずかしさを取り払って、心と体で「生まれてきてくれてありがとう!」という気持ちを、お子さんに投げかけてください。子どもたちに「生きている」喜びを感じさせられる授業にしていきます。	

3年 指導者 1組 本郷 敬子 2組 諸岡 朋子 3組 野口 望

題名(資料名)	落ちていたきっぷ
ねらい	困っているおばあさんを想像して、じっとしていられず切符を届けた明子の思いを共感的に理解することを通して、相手のことや思いやり、進んで親切にしよとする道徳的実践意欲を培う。
授業のポイント	<p>3年生の子どもたちは、学校生活の中で、困っている友達に対して手を差し伸べたり、温かい言葉をかけたりと思いやりのある行動が多く見られます。相手のことを親身になって考え、親切にできる良さを、さらに伸ばしていきたいと考えました。友達など身近な人だけでなく、誰に対しても思いやりの心をもって、親切にする態度を育てていきます。</p> <p>『落ちていたきっぷ』という教材は、主人公が困っているおばあさんを見て、相手のことを自分のことに置き換えて想像して親切にするという話です。子供達に、主人公への共感を通して、思いやりの心を自分の中に見付けさせます。</p> <p>授業では、教材文を読み、おばあさんを想像して、じっとしていられなくなった理由を中心に話し合います。そして、主人公への共感を基に、自分の体験を振り返り、思いやりの心が自分にもあることに気付かせます。</p>
見落としてしまいそうな子供達の小さな親切を見付けてあげてください。そして、大いにほめてください。親切にすることをご家庭で共有すると、さらに思いやりの心が育つと思います。	

4年 指導者 1組 高田 悠平 2組 鈴木 野火 3組 池田 哲士 4組 伊藤 美由紀

題名(資料名)	フィンガーボール
ねらい	女王様の真心をもった振る舞いについて考えることを通して、相手のことを親身に思いやる心を形として表すことが誠意のある行為につながることに気づき、礼儀正しい行いについての理解を深め、誰に対しても真心をもって接する道徳的実践意欲を培う。
授業のポイント	<p>4年生の児童は、礼儀としての挨拶等は身につけてきたものの、思いやりのある行動や真心をもって接することに関しては未だに課題となることがあります。礼儀の本質を理解し、誰に対しても真心をもって接することができる4年生を育てていきます。</p> <p>本教材は、様々なバリエーションで広く知られている教材の一つです。一見無礼な行為に込められた真心のよさが心に沁みると同時に、人との関わり方において深い示唆を与えてくれるからこそ、多くの人の心に残り、語り継がれているのでしょう。</p> <p>客に恥をかかせないように、マナーを破る女王の行為を支える心情をしっかりと押さえることで、真の礼儀の在り方を理解させ、実践意欲へと繋げていきます。手元の端末で挿絵等を見ながら学習することで、場面の移り変わりや、登場人物の心情変化のきっかけをつかみやすくなります。</p>
ご家庭でも、その「思いやり」が自分本位なのか相手の立場や気持ちを十分に考えたものなのかを振り返る機会をつくってください。本授業と相まって指導の効果がより深まると思います。	

5年 指導者 1組 田所 烈士 2組 内田 理恵 3組 森田 ひとみ 4組 三木 瑞菜

題名(資料名)	くずれ落ちただんボール箱
ねらい	誤解された「わたし」の心の動きを共感的に理解することを通して、相手が分かってくれなくても親切にすることの大切さに気づき、誰に対しても思いやりの心を持ち、親切にしようとする道徳的実践意欲を培う。
授業のポイント	<p>5年生の児童は、親しい友達に対して思いやりをもって行動し、相手に親切にしようとする意識をもって生活することができています。しかし、親しい友達や、教員に対してだけでなく、社会の中で誰に対しても親切心をもって接することができるように成長してほしいと思っています。</p> <p>高学年段階においては、本教材のように、純粋な善意を動機とした行為が誤解されると、強い反発を覚えることがあり、「どうして主人公は、見知らぬ子が倒した段ボールを片づけたのか」と問うことで、だれかに親切に接することで、自分の心も温かくなることに気付かせ、また、生活体験を想起させることで、自分を改めて振り返るきっかけとなります。そして、今後の行動に活かしていきたいと考えています。</p> <p>6年生の卒業が近付くにつれて、高学年としての自覚が一層高まってくるこの時期、下級生の面倒を見るが増えたり、学校や地域の様々な人と関わったりする機会も増えてきます。本教材を通して、誰に対しても、思いやる心を大切にできるように指導していきます。</p>
ご家庭でも、生活経験の中で「思いやり」をもって行動できたことを振り返ったり、心が温かくなった経験を思い出してみたりすることで、より考えが深まると思います。	

6年 指導者 1組 小俣 優 2組 小林 美紀 3組 中原 朝陽

題名(資料名)	「がんばる」はぼくの宿題
ねらい	「がんばれ」という言葉を口にできなくなった鎌田實さんの心の変化について考えることを通して、思いやりや親切には様々な形があることに気づき、相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりして、親切にする道徳的態度を養う。
授業のポイント	<p>本教材は、長野県の病院で院長を務めた鎌田實さんの文章です。1970年代後半、30代の医師だった鎌田さんと患者さんの対話や鎌田さんの思いが綴られています。</p> <p>6年生の児童は、相手の状況を自身に置き換えて想像できるようにもなってきます。しかし、その考えは思い込みや自己満足であることも少なくありません。</p> <p>「患者さんが頑張れば、いくらでも後押しができる。医師が頑張るから、患者さんへの頑張ってもらいたい」と考え、「がんばりましょうね。」と言っていた鎌田さんがあるとき、「もうこれ以上頑張れない…」と涙する患者さんと出会い、自分の考えを振り返り始めます。児童とは、この文章をもとに自身の「思いやり」についての考えを深める授業を展開していきます。</p>
ご家庭でも、その「思いやり」が自分本位なのか相手の立場や気持ちを十分に考えたものなのか振り返る機会を意識的に生み出していただけると、本授業と相まって指導の効果がより深まると思います。	